

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395300011		
法人名	有限会社ふなびきメディカル		
事業所名	グループホームほほえみ扶桑 (1階)		
所在地	愛知県丹羽郡扶桑町大字南山名字本郷289号		
自己評価作成日	令和4年9月10日	評価結果市町村受理日	令和5年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=239530011-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	令和4年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園地帯にあり、家庭的な雰囲気の元、一日が明るく・楽しく・元気よく過ごせる事と、利用者ごとご家族が少しでもホットできる場であるように、サービスの提供に努めています。毎月季節ごとの行事は恒例で行っており、楽しいひと時を共有して頂けるように企画しています。利用者の潜在能力を引き出し、施設での生活が自分らしく過ごして頂けるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな田畑が広がる中に2階造りのモダンな佇まいの事業所があり、開設14年の歴史がある。近隣は住宅やコンビニエンスストアなどが徐々に建てられ、買い物や散歩などを通して地域との繋がりが広がってきている。理念の中に掲げている、「元氣、明るく、楽しく」を、毎月、職員の自己チェックシートに掲げ確認をしたり、日々のケアを通して振り返りをしたり、言葉に出して各人が意識をしてケアにつなげるように努めている。運営推進会議は、毎月テーマを決めて講師を招き様々な勉強会を行い多くの参加者から好評を得ている。また、地域の行事に参加したり、家族と一緒に季節の花見などの外出も楽しみの一つとなっているが、コロナ禍で運営推進会議の方法や外出、地域との関わりなど自粛や制限する中で、ホームでできることを工夫して楽しんでいる。ホームのシンボルツリーとなっている「大きな柿の木」の周りにベンチやテーブルを並べて、ティータイムやおやつパーティーなどをしたり干し柿を作ったり、季節の野菜を植えたりして和氣あいあいと楽しいひと時を過ごしている。玄関や2階フロアのコーナーに生花や四季のオブジェなどを置き、風情や季節の移ろいを楽しめるような癒しの空間としている。入居者は、やわらかい日差しが注ぐコーナーで心行くまで日向ぼっこをしたり、ソファにゆったりと腰かけテレビを見たり、和やかに入居者同士や職員と会話をしたりしてのんびりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中に根差し近所付き合いを大切に、明るく・楽しく・元気よく、一人一人が自分らしく生活できる場所」を理念とし職員が生き活きとしていれば、利用者や家族も明るく楽しく元気に地域の中でその人らしく暮らし続けることを目的にしている。ミーティングや日々の申し送りを通じて、管理者と職員で理念の実現に向けて取り組んでいる。	「明るく、楽しく、元気よく一人ひとりが自分らしく生活できる場所(家)」を理念として掲げ、事業所が目指すサービスの有り方について、毎月実施している自己チェックリストへ理念を書き出し、意識の共有を図るようにしている。また、具体的なケアが提供出来るようミーティングで話し合い実践に繋げ、日々のケアを振り返りながら共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナ禍の為地域の行事は全て中止となり、ボランティアの受け入れも中止している為、地域との交流ができていないが、近所への散歩は行っている。ボランティアの方から頂くDVDを利用者と一緒に楽しんで、感想や要望を伝えることで交流を図っている。	「ご近所付き合いを大切に」をモットーに、初詣や桜祭り、盆踊り、保育園や中学生との関わり、ボランティアの受け入れなどは根付いているが、今年もコロナ禍の影響により難しい状況となっている。感染状況を把握しながら、散歩をしたり、近所の方からの差し入れなどの交流を継続しながら、地域との顔なじみや風情を忘れないようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方や認知症の高齢者を抱えている家族が地域の中で不安を抱えながら暮らすことがないように、メンタルケアや介護をすることでアピールすることができる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為家族や外部の方の参加をお断りして利用者や職員のみで会議を行っている。利用者に係わるテーマや興味を持てる内容で行い、感想や意見を聞きながらサービスの向上に活かしている。	家族、自治会長、民生委員、介護健康課、包括職員の参加を得て2か月に1度「老後は生きいき笑顔で生きよう会(運営推進会議)」を開催しているが、現況はコロナ禍により入居者と職員で実施し、会議報告は家族や関係者へ郵送している。議題の意見を収集できるように関係者には、直接電話で確認をする場合もある。	コロナ禍により、面会の規制や運営推進会議参加の見合わせなど家族からの思いや意見を聴取する機会が薄くなっている現状にある。運営推進会議録の郵送時に、アンケートや葉書などを添えたりして、家族からの反響や意見、要望などを収集する工夫をし、サービスの向上へ繋げ行くことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の介護保険担当課や地域包括支援センター、社会福祉協議会に出向いて事業所の状況等を伝えて相談している。運営推進会議の報告も行っている。	更新時の申請手続きに役場の窓口を訪れ、空き情報等の情報交換、困難事例などの相談を行い協力体制を築いている。コロナ禍において市の担当者とは、電話やFAXなどで情報交換をすることが多くなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてミーティングで学ぶ機会を作り指導している。新人職員には個別に行っている。や無負いなく身体拘束を行う場合は、家族に了承を得て行っている。状況に応じて拘束が外せるように取り組んでいる。	「身体拘束について」本部の勉強会を年4回、事業所としては年2回実施している。コロナ感染予防の為、現在は内部研修として管理者が実施している。研修後は研修記録を記載することで理解に繋げている。入居者には行動の抑制やスピーチロックは、日ごろから注意しケアに取り組んでいる。	入居者に対しての行動の抑制やスピーチロックなど、知識と実際のケア(職員自身のケアの方法や癖、タイミング、視線など)との差異を職員其々が再度見直すことで正しく理解し、入居者視線の支援に結びつくようにしていくことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力や介護拒否がないよう、不適切なケアをした場合は事故報告書を基にミーティングを行い学ぶ機会を設けて職員個人個人が自覚をもって介助できるように指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍の為権利擁護や成年後見制度について講師を招いての勉強会はできていないが、ミーティング等で行っている。平成26年7月から成年後見制度を開始している方が入居している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約又は改定時には利用者や家族に十分な説明を行い理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は常に利用者や家族の訴えに耳を傾け、苦情や不満の意見を聞き入れ、職員にはミーティングや朝礼で話し合い、より良い施設づくりに反映している。	入居者からは日々の関わりや入浴、おやつ、就寝時などゆったりとした時間に思いを聞いている。家族からは電話や面会時、近況報告、家族会などの機会に意見や要望を聞き、ケアや業務改善に役立っている。コロナ禍においては、家族会や面会に制限があるが、「ほほえみ扶桑たより」の発行は、家族に安心を届けている。家族意見や要望は職員で検討し、プランや支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務中やミーティングで自由に意見を出し合って話し合いを行っている。	日頃から職員が気軽に提案や意見が述べやすい雰囲気を作り、日常の業務の中や個別に意見を聞くようにしている。また、月1度のミーティングや自己チェックリストを活用して意見や要望を聞き、申し送り時やミーティングなどで検討して、運営やケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の努力や実績、勤務態度を把握し給料に反映している。各自が向上心を持って働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の実績に合わせて法人外の研修への参加を許可し、スキルアップを促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	扶桑町グループホーム連合研修(年2回)やグループホーム連合協議会はコロナ禍で中止している為交流ができていないが、内部で勉強会を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から初回訪問・入居に至るまでに不安要素、求めている事等、細かくアセスメントを行い、入居時は自宅と連続して同様に安心して暮らせるよう自宅で使用していた家具を持ち込んだり、アルバムを持参して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回訪問・契約・入居に至るまで経緯を尊重し、何でも気軽に相談できるように常に傾聴し、受け入れやすい環境作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント情報(個人情報)カルテを通じ、医療面・身体面・メンタル面等を把握し、必要であれば他のサービス事業(医療・福祉用具等)との連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居時より個別のケアプランを作成し、できる事はして頂き人生の先輩として優れている事を称え教えて頂き、できない所を援助して共に支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時より家族の意向を聞き取り、本人にとって一番安心できる場所であることを前提に面会時やほほえみ扶桑便り等で近況報告をして協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が維持できるように写真などを見せて頂きながら生活歴を共有して、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	地元の入居者が多く、友人が訪ねて来たり、家族の協力を得て、喫茶店や美容院、墓参りなどの継続的な支援をしていたが、コロナ禍の中、現在は自粛している。入居者の方の好きだった野菜作りや習字などの活動や趣味の継続をしたり、掃除や洗濯物のたたみなどの家事仕事を通して生活歴が変わらない様に取り組んだり、事業所内でできる思いでの再現をレクリエーションで実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が孤立しないように共通する部分を把握し、利用者がお世話役になってもらったり、教えてもらったりと共に支えあえるような場面をさりげなく作れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体悪化など長期入院を余儀なくされた場合でも常に連絡を取り、必要に応じて相談や支援を行い、関係を断ち切らないお付き合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アルバムを見て頂いたり、昔話を聞かせて頂いて本人の生活歴を把握し、その人らしい居心地の良いライフスタイルができるように検討し、ケアプランに挙げ取り組んでいる。	入居者の生活歴を把握し暮らしの希望に繋げる様にしている。傾聴の姿勢を基本として、日常の入居者との関わりの中で、会話、表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取ったりしている。自己発言の難しい方へは腰を下ろし目線をあわせ、仕草や表情から読み取る様に対応している。聞き取った思いは、申し送りノートや相談ノートに記載して共有を図り、支援への活用やサービスプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用者に生活歴・嗜好品・生活環境について聴取しケアサービスに反映できるように努めている。家庭で使用していた家具など馴染みのものを持参して入居して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のADL・IADLを知り一日の過ごし方を総合的に把握し、できる事はして頂きできないことは援助できるように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント情報で利用者のニーズを把握し、担当者会議ではコロナ禍の為家族のみで行い、医師・看護師・理学療法士の意見を参考に検討し、介護計画を作成している。モニタリングは毎月行っている。	モニタリングは毎月実施し、ケアプラン見直しは6か月を基本としているが、状態が変化した場合は随時見直しを行っている。医師、看護師、理学療法士などからの意見や意向、毎朝のミーティング内容などを踏まえながら、現状に即した介護計画を作成している。プラン変更時はケアマネから職員へ説明を行い、支援内容の統一を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し共有プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問リハビリや訪問看護・訪問診療を活用している。同一法人ふなびきクリニックには、グループホーム担当看護師が配置されており、いつでも対応が可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為地域資源を把握した積極的な活動はできていないが、本人が必要とする資源が把握できるように支援し、安全で豊かな暮らしができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医としてふなびきクリニックの医師が定期的に訪問診療を行っている。他科受診を希望される利用者には情報提供を行い、通院時の支援を行っている。	受診希望については、入所時に確認を行い、希望に添う様にしている。法人母体が、クリニックとなっている為月2回、内科・外科・皮膚科の往診が可能である。歯科については家族の協力を得てかかりつけ医で受診をしている。医師も2人体制で協力が得られ、看護の協力も24時間可能である。受診結果は看護師や管理者から報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化や情報を看護師に毎日報告し、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ふなびきクリニックの医師や看護師とは常に利用者情報を共有し連携を図っている。入院・退院の際は速やかな情報提供・情報交換ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方について家族と本人の意向を踏まえた上で話し合い、必要に応じて医師と看護師と連携を図り、家族・本人の思いに沿えるようにしている。(栄養補助剤品で対応して食事が上がらない場合や、嚥下状態が困難となった時には、ふなびきクリニックへ入院の対応となる)	事業所として看取りは実施していない。入所時に家族へ説明し同意をえている。協力医との連携にて判断と対応に当たっている。身体状況で医療重視となった場合は、医師と家族を含め話し合いをして方向性を決め、事業所として出来る範囲の支援している。24時間訪問看護の連携体制は確保できている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、ミーティング等で応急処置や初期対応の指導をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	資格を有する防火管理者を配置している。火災訓練は定期的実践している。地域の人々や近くの消防署と連携し、火災時の協力が得られるようになっている。	年2回水害、火災を想定し訓練を実施している。災害マップを活用しながら推進会議でも議題に挙げ話し合いを重ねている。備蓄品は水害を想定して別棟で保管し、本部と連携を図り管理を行っている。	気象変動により地震や台風など、さまざまな災害が発生している事から、夜間帯を想定した訓練や水害時など様々な視点から想定される訓練を実施されることが望まれる。また、緊急時に備え、備蓄品のリストや保管場所の確認など訓練時に抱き合わせるなどして全職員に周知し管理されることを願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録等個人情報以外はネームにイニシャルで記入している。本人の前では自尊心を気づけないような言葉は言わないように配慮し、大きな声で対応しないようにしている。	入居者の思いを尊重し、気持ちに配慮した言葉掛けや遠くから大きな声で話すことのないように、言葉かけには特に注意をして対応している。入居者の特性や性格、生活歴等を考慮して人格を尊重し、本人の気持ちを損なわないような関わりをするように努めている。日々の変化については申し送り時に共有し、一人ひとりへの対応の仕方についてミーティングで話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にも自己決定ができるような声掛けを心掛けている。意思表示ができない方にはその都度、顔色や表情を確認しながら「はい・いいえ」で答えられるように問いかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のライフスタイルや趣味を配慮して、不安なく、楽しい時間を過ごして頂けるように工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度訪問理容サービスを活用している。入浴時やモーニングケアで本人のできない部分を支援し、生活の中にメリハリができるように取り組んでいる。行き付けの美容院がある方は家族が対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや後片づけ、一人一人の能力を生かしながら職員と一緒に取り組んでいる。動けない方にも食事の臭いや食材の刻む音、料理についての昔話等で参加して楽しんで頂いている。	食事は法人本部のキッチンで調理されている。メニューは管理栄養士が、季節感や栄養を考慮して作成している。主食とみそ汁は事業所で作っている。入居者は下膳やおやつ作りなど個々の有する機能の中で作業に参加している。外食レクはコロナ禍のため自粛している。干し柿を作ったり、赤飯を炊いたり、お弁当箱を使用したりして雰囲気を変え食事が楽しめるよう配慮している。菜園で収穫した野菜や近所の方からのおすそ分けなども、食卓に彩を添えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は委託による管理栄養士の献立にて提供されている。個人の接種状況によって食事形態や量を調節し、摂取量と水分量は記録に残し把握している。自己にて摂取出来ない方には食事介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア・口臭予防に緑茶の嗽を実践している。自立している方には声掛け・見守り、朝夕の歯磨きについては、磨き残しがないようにチェックしている。義歯は夜間預かりポリドントに付け置きしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し一人一人の排泄パターンを把握し、さりげなくトイレ誘導をしている。訴えることができない方は、排泄の時間を把握しトイレ誘導を行っている。排泄チェック表は他の人に見えない工夫をしている。	排泄チェックシートを活用し、さりげなく声掛けを行なうことで生活リズムに沿った支援を行っている。可能な限りトイレでの排泄が維持できるように取り組んでいる。夜間は睡眠状態等を考慮して排泄支援を行っている。一人ひとりの状態のあった下着を付け、清潔保持を心がけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす環境を理解し水分量・食事量を把握し、便秘症の方には乳製品の接種の促しや水分の促しを行っている。運動不足にも注意してフロア内を歩いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴の為にんびりゆったり入って頂けるように週2回を目安に午前中に入浴して頂いている。1階の脱衣室からは庭が見える工夫があり楽しまれている。	入浴は週2回を基本としている。フロア一別に一般浴と座浴の2種類の浴槽が設置されている為、身体状況に合わせて入浴を楽しむことができる。湯はかけ流しにし、衛生面にも配慮している。ゆず湯やしょうぶ湯などの季節風呂や坪庭が見える浴室の湯船にゆっくりつかり入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣や体調に合わせて入眠して頂いている。昼夜逆転しないように一日の生活リズムを把握し、良眠できるように支援している。天気の良い日には布団を干し、3週間置きのリネン交換で気持ちよく入眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の内服薬を把握し、日々の体調変化について目配り・気配りを行い、変化があればその都度医師や看護師に上申し薬の変更等指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の生活リズムの中にメリハリと楽しみが持てるように役割や興味のあることを見極め、一緒に取り組んでいる。一人一人の生きがいを見つけ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為に遠方に出かけることはできていないが、ご近所の散歩は希望があれば出かけている。	庭には大きな柿の木があり、庭木に囲まれ季節感が感じられる。テーブルと椅子が設置されているので、お茶を飲んだりピクニックをしたり、花を植えたりして、外気に触れ気分転換を図るようにしている。ストレスが溜まらない様に日常的に散歩へ出かけたり、ハビリ歩行訓練を兼ねて職員と一緒に周辺の散歩に出かけている。買い物や季節の花見、遠出の外出は、自粛している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の預かり金を持って買い物や外食の機会を計画して出かけていたが、コロナ禍の為今年もできていない。財布の管理ができる方は支払い時に見守りを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時にはその都度電話連絡を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子の利用者も利用できるように広い空間作り、不快な音や光が入らないように配慮している。季節の生花や手作りの壁掛けなどを飾り、ホッとする空間を作っている。	フロアーには畳コーナーやソファが設置されている。中庭を眺め、季節の果物や園芸、収穫野菜を見ることができる。コロナ感染予防として医療対応型の空気清浄機を設置し、消毒や1時間ごとの換気は徹底して実施している。外出後は衣類をの交換も実施している。毎日ラジオ体操や365歩のマーチに合わせる体力作りが楽しみとなっている。玄関やフロアーのコーナーには生花やオブジェなどを置き、風情や季節感が楽しめるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事や居間、気の合った利用者同士で思い思いに過ごして頂けるように工夫している。ソファや畳の間では洗濯物を畳んだり、お昼寝ができるようになっている。独りになりたい時は居室に自由に行き来ができる。庭には椅子が置いてあり景色が眺められるよう工夫してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた日知用品・家具・食器等を入居時に用意して頂き、安心できる空間作りに努めている。アルバムを持って来て頂き、拝見しながら話を伺っている。	ベット、カーテン、エアコン施設の備品であり、部屋には足元灯が有り夜間の安心照明となっている。各室にはそれぞれ作ったぬり絵や書道等の作品、ドリルの問題の解答等が貼ってあったり、思い出の品や写真などが飾られていたりしている。生活の継続性に配慮して入居者が心地よく過ごせるような部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のネームには写真付きで掲示し、トイレは分かりやすいようにイラスト入りで表示している。個人情報保護法を尊重しつつ、本人の持ち物には名前を付け、混乱や失敗がなく自立して暮らせるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395300011		
法人名	有限会社ふなびきメディカル		
事業所名	グループホームほほえみ扶桑 (2階)		
所在地	愛知県丹羽郡扶桑町大字南山名字本郷289号		
自己評価作成日	令和4年9月10日	評価結果市町村受理日	令和5年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosvoCd=2395300011-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和4年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園地帯にあり、家庭的な雰囲気の元、一日が明るく・楽しく・元氣よく過ごせる事と、利用者ごと家族が少しでもホットできる場であるように、サービスの提供に努めています。毎月季節ごとの行事は恒例で行っており、楽しいひと時を共有して頂けるように企画しています。利用者の潜在能力を引き出し、施設での生活が自分らしく過ごして頂けるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな田畑が広がる中に2階造りのモダンな佇まいの事業所があり、開設14年の歴史がある。近隣は住宅やコンビニエンスストアなどが徐々に建てられ、買い物や散歩などを通して地域との繋がりが広がってきている。理念の中に掲げている、「元氣、明るく、楽しく」を、毎月、職員の自己チェックシートに掲げ確認をしたり、日々のケアを通して振り返りしたり、言葉に出して各人が意識をしてケアにつなげるように努めている。運営推進会議は、毎月テーマを決めて講師を招き様々な勉強会を行い多くの参加者から好評を得ている。また、地域の行事に参加したり、家族と一緒に季節の花見などの外出も楽しみの一つとなっているが、コロナ禍で運営推進会議の方法や外出、地域との関わりなど自粛や制限する中で、ホームでできることを工夫して楽しんでいる。ホームのシンボルツリーとなっている「大きな柿の木」の周りにベンチやテーブルを並べて、ティータイムやおやつパーティなどをしたり干し柿を作ったり、季節の野菜を植えたりして和氣あいあいと楽しいひと時を過ごしている。玄関や2階フロアのコーナーに生花や四季のオブジェなどを置き、風情や季節の移ろいを楽しめるような癒しの空間としている。入居者は、やわらかい日差しが注ぐコーナーで心行くまで日向ぼっこをしたり、ソファにゆったりと腰かけテレビを見たり、和やかに入居者同士や職員と会話をしたりしてのんびりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中に根差し近所付き合いを大切に、明るく・楽しく・元気よく、一人一人が自分らしく生活できる場所」を理念とし職員が生き活きとしていれば、利用者や家族も明るく楽しく元気に地域の中でその人らしく暮らし続けることを目的にしている。ミーティングや日々の申し送りを通じて、管理者と職員で理念の実現に向けて取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナ禍の為地域の行事は全て中止となり、ボランティアの受け入れも中止している為、地域との交流ができていないが、近所への散歩は行っている。ボランティアの方から頂くDVDを利用者と一緒を楽しんで、感想や要望を伝えることで交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方や認知症の高齢者を抱えている家族が地域の中で不安を抱えながら暮らすことがないように、メンタルケアや介護をすることでアピールすることができる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為家族や外部の方の参加をお断りして利用者と職員のみで会議を行っている。利用者に係わるテーマや興味を持てる内容で行い、感想や意見を聞きながらサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の介護保険担当課や地域包括支援センター、社会福祉協議会に出向いて事業所の状況等を伝えて相談している。運営推進会議の報告も行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてミーティングで学ぶ機会を作り指導している。新人職員には個別に行っている。や無負えなく身体拘束を行う場合は、家族に了承を得て行っている。状況に応じて拘束が外せるように取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力や介護拒否がないよう、不適切なケアをした場合は事故報告書を基にミーティングを行い学ぶ機会を設けて職員個人個人が自覚をもって介助できるように指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍の為権利擁護や成年後見制度について講師を招いての勉強会はできていないが、ミーティング等で行っている。平成26年7月から成年後見制度を開始している方が入居している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約又は改定時には利用者や家族に十分な説明を行い理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は常に利用者や家族の訴えに耳を傾け、苦情や不満の意見を聞き入れ、職員にはミーティングや朝礼で話し合い、より良い施設づくりに反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務中やミーティングで自由に意見を出し合って話し合いを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の努力や実績、勤務態度を把握し給料に反映している。各自が向上心を持って働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の実績に合わせて法人外の研修への参加を許可し、スキルアップを促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	扶桑町グループホーム連合研修(年2回)やグループホーム連合協議会はコロナ禍で中止している為交流ができていないが、内部で勉強会を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から初回訪問・入居に至るまでに不安要素、求めている事等、細かくアセスメントを行い、入居時は自宅と連続して同様に安心して暮らせるよう自宅で使用していた家具を持ち込んだり、アルバムを持参して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回訪問・契約・入居に至るまで経緯を尊重し、何でも気軽に相談できるように常に傾聴し、受け入れやすい環境作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント情報(個人情報)カルテを通じ、医療面・身体面・メンタル面等を把握し、必要であれば他のサービス事業(医療・福祉用具等)との連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居時より個別のケアプランを作成し、できる事はして頂き人生の先輩として優れている事を称え教えて頂き、できない所を援助して共に支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時より家族の意向を聞き取り、本人にとって一番安心できる場所であることを前提に面会時やほほえみ扶桑便り等で近況報告をして協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が維持できるように写真などを見せて頂きながら生活歴を共有して、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が孤立しないように共通する部分を把握し、利用者がお世話役になってもらったり、教えてもらったりと共に支えあえるような場面をさりげなく作れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体悪化など長期入院を余儀なくされた場合でも常に連絡を取り、必要に応じて相談や支援を行い、関係を断ち切らないお付き合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アルバムを見て頂いたり、昔話を聞かせて頂いて本人の生活歴を把握し、その人らしい居心地の良いライフスタイルができるように検討し、ケアプランに挙げ取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用者に生活歴・嗜好品・生活環境について聴取しケアサービスに反映できるように努めている。家庭で使用していた家具など慣染みのものを持参して入居して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のADL・IADLを知り一日の過ごし方を総合的に把握し、できる事はして頂きできないことは援助できるように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント情報で利用者のニーズを把握し、担当者会議ではコロナ禍の為家族のみで行い、医師・看護師・理学療法士の意見を参考に検討し、介護計画を作成している。モニタリングは毎月行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し共有プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問リハビリや訪問看護・訪問診療を活用している。同一法人ふなびクリニックには、グループホーム担当看護師が配置されており、いつでも対応が可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為地域資源を把握した積極的な活動はできていないが、本人が必要とする資源が把握できるように支援し、安全で豊かな暮らしができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医としてふなびきクリニックの医師が定期的に訪問診療を行っている。他科受診を希望される利用者には情報提供を行い、通院時の支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化や情報を看護師に毎日報告し、利用者が適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ふなびきクリニックの医師や看護師とは常に利用者情報を共有し連携を図っている。入院・退院の際は速やかな情報提供・情報交換ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方について家族と本人の意向を踏まえた上で話し合い、必要に応じて医師と看護師と連携を図り、家族・本人の思いに沿えるようにしている。(栄養補助剤品で対応して食事量が上がらない場合や、嚥下状態が困難となった時には、ふなびきクリニックへ入院の対応となる)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、ミーティング等で応急処置や初期対応の指導をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	資格を有する防火管理者を配置している。火災訓練は定期的実践している。地域の人々や近くの消防署と連携し、火災時の協力が得られるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録等個人情報以外はネームにイニシャルで記入している。本人の前では自尊心を気づけないような言葉は言わないように配慮し、大きな声で対応しないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にも自己決定ができるような声掛けを心掛けている。意思表示ができない方にはその都度、顔色や表情を確認しながら「はい・いいえ」で答えられるように問いかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のライフスタイルや趣味を配慮して、不安なく、楽しい時間を過ごして頂けるように工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度訪問理容サービスを活用している。入浴時やモーニングケアで本人のできない部分を支援し、生活の中にメリハリができるように取り組んでいる。行き付けの美容院がある方は家族が対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや後片づけ、一人一人の能力を生かしながら職員と一緒に取り組んでいる。動けない方にも食事の臭いや食材の刻む音、料理についての昔話し等で参加して楽しんで頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は委託による管理栄養士の献立にて提供されている。個人の接種状況によって食事形態や量を調節し、摂取量と水分量は記録に残し把握している。自己にて摂取出来ない方には食事介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア・口臭予防に緑茶の嗽を実践している。自立している方には声掛け・見守り、朝夕の歯磨きについては、磨き残しがないようにチェックしている。義歯は夜間預かりポリデントに付け置きしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し一人一人の排泄パターンを把握し、さりげなくトイレ誘導をしている。訴えることができない方は、排泄の時間を把握しトイレ誘導を行っている。排泄チェック表は他の人に見えない工夫をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす環境を理解し水分量・食事を把握し、便秘症の方には乳製品の接種の促しや水分の促しを行っている。運動不足にも注意してフロア内を歩いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴の為のんびりゆったり入って頂けるように週2回を目安に午前中に入浴して頂いている。1階の脱衣室からは庭が見える工夫があり楽しまれている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣や体調に合わせて入眠して頂いている。昼夜逆転しないように一日の生活リズムを把握し、良眠できるように支援している。天気の良い日には布団を干し、3週間置きのリネン交換で気持ちよく入眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の内服薬を把握し、日々の体調変化について目配り・気配りを行い、変化があればその都度医師や看護師に上申し薬の変更等指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の生活リズムの中にメリハリと楽しみが持てるように役割や興味のあることを見極め、一緒に取り組んでいる。一人一人の生きがいを見つけ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為と遠方に出かけることはできていないが、ご近所の散歩は希望があれば出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の預かり金を持って買い物や外食の機会を計画して出かけていたが、コロナ禍の為今年もできていない。財布の管理ができる方は支払い時に見守りを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時にはその都度電話連絡を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子の利用者も利用できるように広い空間作り、不快な音や光が入らないように配慮している。季節の生花や手作りの壁掛けなどを飾り、ホッとする空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事や居間、気の合った利用者同士で思い思いに過ごして頂けるように工夫している。ソファーや畳の間では洗濯物を畳んだり、お昼寝ができるようになっている。独りになりたい時は居室に自由に行き来ができる。庭には椅子が置いてあり景色が眺められるよう工夫してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた日知用品・家具・食器等を入居時に用意して頂き、安心できる空間作りに努めている。アルバムを持って来て頂き、拝見しながら話を伺っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のネームには写真付きで掲示し、トイレは分かりやすいようにイラスト入りで表示している。個人情報保護法を尊重しつつ、本人の持ち物には名前を付け、混乱や失敗がなく自立して暮らせるよう工夫している。		